第５回　京丹後市学校再配置検討委員会　会議録

1　開催日時　平成 20 年 6 月 26 日（木）　午後 7 時 30 分～午後 9 時 07 分

2　開催場所　京丹後市役所　峰山庁舎　2 階　201.202.203 会議室

3　出 席 者　髙野委員長、髙田委員、荒田委員、松本委員、小倉委員、板垣委員
小松委員、増田委員、本城委員、小牧委員、平松委員、河田委員
谷委員、平林委員、藤原委員、西山委員、沼倉委員　　１７人
（欠席者）大木副委員長、坪倉委員、野木委員　　３人
（事務局）引野教育長、水野教育次長、髙橋教育理事
粟倉教育総務課長、松井学校教育課長、山副社会教育課長
吉田文化財保護課長、米田総括指導主事
数多教育総務課長補佐、坪倉教育総務課主任　　１０人

4　議　　題

・ 各町検討分科会の最終報告について

・ 各町検討分科会「最終報告」を踏まえた、委員による討論・協議

5　公開又は非公開の別

公開

6　傍聴人の数

０人

7　要　　旨

《議事経緯》

（1）開会

〈教育次長〉

皆さん、こんばんは。定刻になりましたので、只今から第５回京丹後市学校再配置検討委員会を開催させていただきます。本日は大木副委員長さん、坪倉委員さん、野木委員さんからご欠席の通知をいただいております。この場で、委員の皆様半数以上のご出席をいただいていることをご確認させていただきまして、この後の会議を進めさせていただきたいと思います。

はじめに開会のご挨拶を、髙野委員長様よろしくお願い致します。

〈委員長〉

皆さん、こんばんは。本日は第５回学校再配置検討委員会の開催をさせていただきましたところ、１日お疲れの中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

いよいよこの検討委員会も各分科会のまとめを先般いただいて、少し期間がありましたので皆さん熟読していただいたと思います。これからがこの検討委員会の本格的な議論をしていく場になると理解をしておりますので、委員の皆様の活発なご意見等を今日いただきたいと思っております。

特に再配置の検討の視点という事で（１）から（７）まで次第に書いていただいておりますので、その内容につきまして皆様、突っ込んだご意見を是非お願いしまして、いいまとめになるように頑張っていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い致しまして挨拶にさせていただきます。

〈教育次長〉

ありがとうございました。

それでは続きまして、引野教育長がご挨拶を申し上げます。

〈教育長〉

皆さん、こんばんは。大変ご苦労様でございます。回を重ねて５回目の検討委員会という事でございますが、４回目の検討委員会以降、定例議会が開催をされておりまして、明日が最終日でありますけれども、６月定例議会の中では学校再配置についての関心を高めていただいておりまして、いろんなご意見をいただいております。議会の方では、特別委員会を設置してこの学校の再配置、耐震問題、或いは保育所の問題等を検討するような計画があるように聞いております。そういった高まりの中でご意見を広範にいただくことは有難い訳でありますけれども、現在この検討委員会が、かなり分科会の意向を基にして検討を進めていただいているので、先走らないようにお願いしたいと議会の方にはお願いしております。この会議の進行状況を見た上で、特別委員会を作っていただいたとしても他の問題をやっていただいて、再配置の問題は検討委員会の一定の結果が出てからというふうにお願いしているところでありまして、議会で議論されていることが気になって討議が深まらないというのはいかがなものかという様なことから、そういう事をお願いしているという事です。

お手元の資料に２枚付けておりますが、１枚は京都新聞社の記者さんが取材をされたものをまとめられた先日の報道の中身でありますし、もう１枚の方を見ていただきますと、簡単に言いますと、今日まで文科省が言っておりました適正規模という考え方が、このま

までは統廃合が進まないという中で、適正規模の考え方を変えていこうという動きがありまして、私どもの検討委員会ではそれを先取りした形でやっている訳ですけれども、従来言っている適正規模というのは多分大きく変わってくるだろうというふうに思っておりまして、そういうものに拘束されない議論を是非お願いしたいと思っております。

特別委員会が議会の方で作られていきますと、私どもに出席の要請があって、この検討委員会の様子も度々報告させていただく事になろうかと思っておりましたが、最初に申し上げましたように議会の議論とこの検討委員会の議論が、だぶらない様な形できちっと私どもの方で整理をさせていただきながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞ広範な意見を沢山いただきますようにお願いを申し上げましてご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

〈教育次長〉

それでは、この後の議事につきましては髙野委員長様により進行をよろしくお願い致します。

〈委員長〉

それではお手元の次第によりまして、進めさせていただきます。

はじめに、本日の会議録署名委員の指名をさせていただきます。名簿順位９番目の小松委員さん､名簿順位１０番目の増田委員さんを指名致しますので､よろしくお願いします。

それでは議事の、学校再配置の検討について、を議題とさせていただきます。本日の次第書に記入させていただいております、学校再配置検討の視点の７つの視点から今後ご協議をいただきたいと思います。各視点について出たご意見を最終的に検討委員会の答申書という事でまとめていければと考えております。

そこで(１)から(７)のどの視点からでも結構でございますので、委員の皆さんのご意見、ご質問等をお願いしたいと思います。

〈委　員〉

最終報告を見せていただいているのですが、京都新聞の書いている視点がずれているというか、もともと新築はしないという事が前提での諮問であります。それと同時に一番大きな問題というか気にかかる点が、まちづくりの観点からはどうしようかという意見が中に盛られていないという事と、どうしてそういう事になるのかなと考えてみますと、今の市の財政というのが皆さんの頭の中に残っているのか､どうしても新築したらお金がいる、耐震でもお金がいる、けれどもちゃんとしようと思ったら、1 校にして新築するべきだと

いう所に来たんだろうという思いがしております。もうちょっとまちづくりという観点から学校再配置の環境を見ていったらいいんではないかなと思いますが、大変小さな考え方で申し訳ありませんけれども、学校というのは１つのその地域のコミュニティの場所、開かれた学校だという様に言われておりますが、我々が学校に行く機会というのはほとんどないですね。運動会があったら行く、後は敬老会、但し敬老会も学校では飲食が出来ないという事で、敬老会も学校で出来ないという事になれば、運動会くらいしか行かない。もともと我々の小さい時には先生が宿直をされたら、その宿直の先生の所へ遊びに行ったんです。それが、やっぱり学校の開かれた原点ではないかと思うんですけれども。そういう事がまちづくりの１つの原点ではないかなというふうに思いますので、もう少しまちづくりの観点から皆さんの論議が進めばと思います。以上です。

〈委　員〉

今の板垣さんの意見に反論する訳ですけれども、まちづくりをあまり考えすぎると、今の統合問題が進まないと考えます。というのが、まちづくりで地域をそのまま残しておこうと思いますと、どうしても現状そのまま残さなければならない。そうすると、今一番問題になっている統合問題についてが、また後ずさりするというか元に返ってくる気がしますので、ちょっと今のご意見には反論します。

〈委　員〉

先ほどまちづくりという話があったんですけれども、まず分科会の中ではどうしてもＰＴＡの関係であるとか学校に直接携わっている親という考え方からスタートしていますので、全体会とはまた違った分科会としての親の立場で考えてから、次は地域のまちづくりという視点になるかも分かりませんが、あくまでも親の立場で子どもたちにいい学校、いい教育を、安全に或は特色のある、未来ある子ども達に教育の一番いい状況を与えてやりたいという、やはり親の気持ちが一番主体だったのかなあという気はするんです。確かに学校再配置検討分科会の出席者の中でも新築は考えてないとか、現状の通学区域は各町内の中の問題であると、それらは皆さんご承知の上で子どもたちに一番いい教育環境を与えるという事を一番ベースにしてきている。子どもたちが少なくなってくる中で、どうするのか。当然まちづくりという観点からそれぞれ旧町のエリア毎の枠組みが今後もなされていくであろうと思います。それ以前に子どもたちにとっては、そういう所が一番大事ではないかなという事からあえて逸脱したかも分かりませんけれども、そこに絡んでの分科会にご出席いただいた皆さん方のお気持ちを、やはり分科会としては、まとめるのではない

のかなという事が、皆さんきっと思われたと思います。それをまた、この場でまちづくりという事とクロスさせながら考えていただくにしても、例えば京都新聞、今日お配りいただいた中でも、校舎を新築にという部分を明確に謳われている、また分科会のメンバーに出会えばあの話はどうなったかという話も出てくる、その辺りについてきっちりと審議会の全体会の中で分科会のメンバーに対しても説明出来るような結論を出すことが必要ではないかなと思っています。その上で安全の問題も含めて議論することが必要ではないかなと思います。この新聞のことであれもこれもいろいろ言われるやろなというのが気になりましたので申し添えました。

〈委員長〉

他にありますか。

〈委　員〉

それと耐震補強の問題がありますけれども、これについて市の動向という様なものはありますか。

〈教育次長〉

耐震問題につきましては、中国四川省の大地震等を受けまして、国の方でもこれまでの補助率を嵩上げする事を考えておりまして、特に耐震性能の低いといわれるＩＳ値０．３未満の建物については向こう３年間位で手立てをするようにと強い指導を受けておりまして、そのことを最優先にする必要がありますけれども、尚且つ、現在既に再配置計画の検討をいただいておりますので、その計画とぴっちりと連携した形で事を進めることが出来ればというふうに考えております。

〈委　員〉

連携の事が我々には見えない部分も結構ありますので、その辺がどうなのかなと思います。統合するにしてもリストはいただいておりますが、今後の新たな動きの中でどういう風にリンクしてくるのかが皆さん不安だと思います。

〈委員長〉

いかがでしょうか。特に分科会で議論していただいた場とここの検討委員会というのは、分科会では子どもさんなり親御さんなりすぐ近くのその地域のことやらいろいろ思い出してあったでしょうけど、少しその部分を軽くしていただいて、ある程度６町の分科会のまとめを十分読んでいただいた結果、こんなこと、こんなこと、こんなことはより議論しておく必要があるなという様なところを是非お聞かせ願えればなと思います。

〈委　員〉

中教審の事はどうなっていますか。この適正規模だとかその辺りはどういう方向になるのですか。

〈教育長〉

先ほど触れさせていただきましたけれども、従来の基準がそこに書いてありますが、これが適正規模という事で指導してきた１つの基準なんです。必ずしもこれに拘束されるというものではないですけど、こういう方向で進めてきた訳です。けれども、全国的にこういう形で進めてきた中で、統廃合がうまくいかなかった、弊害がもろに出てしまったという地域もあるわけです。特に東北の方がそうなんですけれども。そういう中から見て、やっぱり今日までのこの適正規模という考え方については全国的なそれぞれの地域の特性を見ながら、もっと幅のあるものにする必要があるのではないか、と従来から言われていた訳ですが、それについてようやくそういった方向に流れが見えてきたというのが、まだ最近の状況なんです。多分そういう方向になるだろうという事で、この検討委員会が立ち上がる段階ではあまり適正規模には拘らないでいこうというのが、そこが１つの目安であった訳です。あまり適正規模には拘らないで考えていただく方が、今の状況には沿うのではないかなと思っていますので、仮に学年１学級だけの学校であっても、それは統廃合に不適切だという事にはならないと思います。従来はそういう指導が入ってきた訳です。多分そういう事は飛んでしまうと思うのですが。

それから先ほど耐震性の話がありましたけれども、一応いろいろな角度から診断をしておる訳ですけれども、補助率が変わったと申しますのは、建替えをするという様な場合、従来の１／３が１／２になったとか、耐震性を持たせるための補強が１／２が２／３になったとかいう事で、補助率が高まってきておりますので、これを３年間位で一定の目処をつけてやれというのが文科省の今の指導の方向なんです。けれども３年位では全国的に埒があかないのではとは思っていますが、一定の目処を付けて国は指導してきますのでそれを無視してという訳にはいかないと思いますけれども、その範囲内でやることが財政的にも随分楽になりますので、その辺が１つの目安になってくると思われますが、その事に拘りすぎて再配置が動いてしまうという事は如何なものかと思いますので、その辺のさじ加減というか、バランスのとり方が非常に難しいと思っております。

〈委員長〉

どうですか皆さん、（１）（６）はこの検討委員会で議論するには荷が重過ぎるのではな

いかなという感じがしますので、（２）（３）（４）（５）について各自、児童生徒数の推移なり複式学級なりについて、私はこんなことがどうかなと思っているという事を順番にお願いするという事で如何でしょうか。

荒田さん、いかがですか。特に（２）から（５）までぐらいは、思いを言っていただければありがたいと思います。

〈委　員〉

児童数はどうか分からないですが、先ほどのまちづくりの観点からいくと、私は京丹後市という新しい市が出来たのだから、再配置を行って新しいまちづくりを考えていくというのが望ましいと思っているんですし、通学区域の安全性を考えるとバス等を考えていかなくてはならないのはやむを得ないというのが、各６町の報告を読ませてもらっても必要不可欠な条件になるかなと思っております。教育活動と教育効果、人材を生かすという意味では、統廃合によって先生の能力を大規模校で生かすというやり方は望ましいことだと思ってきてたんです。やっぱり小規模校の先生が、例として修学旅行に沢山の先生が付き添うという話も何回も出てたようですけれども、再配置をすることによって先生の能力も上手く生かしていただけたらいいのではないかなと思います。小規模校の先生が何人いるのか分かりませんが、大規模にすることによってそこへ先生を集めるというのがいい表現かどうか知りませんけれども、先生のご教授力とか部活の能力であったり、そういった能力を再配置によって生かしていっていただけるのではないかなと思いました。(５)について、再配置の報告を新聞等で今まで聞かせてもらった中でなら、耐震性の問題を考えていくと、最終的に建ててもらったらいいなあという思いにも至りますけれども、財政を考えていきますと協議していかないといけない。理想としては１校になって新しく魅力のある学校が出来たら理想ではないかなと思い読ませていただきました。私としては、新しいまちづくりを考えていくことが、一番京丹後市となってのキーポイントではないかなと思っています。

〈委員長〉

松本委員さんいかがでしょうか。

〈委　員〉

ちょっと、何から話したらいいのか。

〈委員長〉

何でも､思いを出していただくことが重要だと思いますので肩の力を抜いていただいて、

こんな再配置がいいというのをお願いします。

〈委　員〉

今までの報告を読ませていただいて、いろいろな議論の中で相反するような要因というか状況が随分出てきているのでちょっと整理しきれないんですけど、したつもりで私もまとめたりしてるんですけど、例えばまちづくりとか地域づくりの視点が大事だという事、適正規模等の教育環境のあり方をどうするか、子どもの思いと親や地域の人たちの考え方、意見はどうなのか、違いがある。各町域毎に持っている特殊性といったものがあります。それから既存の施設を活用するというふうな中で、耐震性ですとか安全性ですとか交通手段の確保がどのように保たれていくんだろうか。難しいんでしょうけど新設校の希望があるんだけれども財政問題はどうなるのか等、いろいろあると思います。まちづくりの話が先ほどから出てきておりますけれども、我々のまちづくりの考え方をまとめておりまして、私たちのまちづくりの視点というのは、愛・絆・心というものを大切にしながら智恵と力を出し合って、住みよいまちづくりをしていくことを願うという思いを持ちながらベースにしてやってきている訳です。学校というものもまちづくりの中では非常に重要な位置を持つものであろうと思いますので、より良いまちづくりをするためにも、学校をいい状態で統合するという事を考えていっていただきたいと思います。それと、京丹後市としての特色のある教育のビジョンといいますか、そういうものを何処に置こうとされているのか、という事が十分に理解できないような気がするのですが、そういうものを出していただければ、その方向性の中で旧町毎の特色ある学校のあり方が出していけるのではないかという気もしているわけです。今のところはそれぐらいしか解らないんですけれども、そういう思いでおります。

〈委員長〉

ありがとうございました。はいどうぞ、お願いします。

〈委　員〉

検討して欲しいと要請された時の一番大きなポイントは、まちづくりにあったと思います。というのは、適正規模で２クラス学級数があったらいいと人数だけで割り振ってしまうのではなく、まちづくりの観点から考えてみたらという事で、報告書を読ませてもらったらその辺が出ていなかったというのが、１つはどういう事かなあというふうに考えていたら、子どもたちを中心として、僕らの立場で子どもがどうするのが一番いいのかという事の論議が中心だったと聞かせてもらって、それはそれでいいと思うんですが、報告書に

ありますように、新築するだとかそういうふうなことが出ていますけれども、この前も申し上げましたけれども、分科会の委員の皆さんについては本当に苦渋の結論を出されたと聞きました。本当にその通りだと思っておりますので、皆さんが出されてきた意見をこれは駄目だとかいいとかいう論議はたぶん難しいのではないかなと。我々としては皆さんが苦しんで出された結論を、我々が全体的に見ておかしいというところまでは、多分口が挟めないだろうというふうに思います。従って、出されましたそういう意見を中心にして、逆にどうまちづくりに結び付けていくかがこれからの１つの課題かなと思います。これまでそういう極論のご意見が出ていなかったので逆に出されたものを中心にして、まちづくりをどう発展させていくか、学校を中心にして、というふうなところに伸ばしていくのがいいのではないかと思っております。特に学級数はクラブ活動が出来るようなクラス編成、例えば２クラスの編成が一番いいだろうという様に、それは誰が考えてもそういう事になることですし、通学手段についても土地が大変広いですから６キロと言われていても、とてもそれはできないとすると通学バスがどうしても必要になる。通学バスが全地域に可能か、という様な心配が１つにはあるのですが、その辺の論議もこれから必要かなと思います。

〈委　員〉

児童生徒数の推移という中で、結局、峰山なんかでも一昨年生まれた子どもたちが１０７人しかいないよと、まず問題提起はそこから実は始まっています。そうした子どもたちが減る中でどうやっていくのか。複式学級の存在であるとか、適正規模がどれだけのものか、クラブ活動が出来るような複数の学級、１クラス３０人以上でというのがベースにあります。ただ、まちづくりの話にもございましたけれども、人口が増えないことには所詮先行きいかへんやないか、という事は結局企業誘致なり何なりして地域を活性化していかないことには、いつまで経ってもまちづくりも進まない。それが一番肝心なので、スクールバスの問題等、いろんな学校の規模もありますけれども、するとすればという部分ではなくて、反対に子どもたちに対しての積極的な統廃合をすることによって地域がまた変わってくる。そういう統廃合までもっていかないと、仕方がないから再配置というという事ではなくて、積極的な統廃合という事で１校案にしたという事があります。

〈委員長〉

ありがとうございました。

〈委　員〉

峰山町は１校という事で話を進めてきていただいたのですが、仕方がないからじゃなくて、合併問題も耐震もいろんな意味でプラスの方向で考えて来られたという事で、一番最初、全体会でありましたように新築はしないとかそういう事もありましたし、1 校案というのがプラスの発想として出て、後々考えていくと財政の問題もありますけれど、まず子どものことを考えたらどうしたらいいか、という事が皆の中であったという事なんです。そこを地域を代表する者としてどうするか、町としてのまちづくり、地域のコミュニティを考える時にまず子ども達のことを考えて先々を考えると、まず学校が大事、そこに住んでいる地域が大事ではないかという事が随分出ておりまして、一個人としては財政の問題は分かりませんけれども、難しいのかなという感じを持ちました。私個人としてもお金も沢山いることですし、耐震補強してもらっても実際どうなのかな、子どもの数も少なくなる、地域の活性も下向きになっている状態で、少しは光が射すようなことを考えてできないものかなあという様な感じを受けました。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

〈委　員〉

皆さん、こんばんは。今までの分科会で進めてきた段階よりも、検討委員会というのは高度な話し合いになるという事で、レジメを見せてもらった途端にうっというのが第一印象でした。ちょっとピントがずれているかも分かりませんが、本当に今まで基本に忠実に分科会としては進めてきたと大宮は自信を持っております。それは、既存の建物をという事から始まりまして、繰り返しになりますが、他町と違って昭和５２、３年にもう既に統合しているという状況の中で、新しい建物も建っている。そういう中で大宮町の小学校の耐用年数も分からないものですから教えてもらうという様な状況の中で、鉄筋コンクリートの建物は国で４７年と定められている状況で大宮第一、第二、第三小学校の今までの経過を逆算していくと、３３年とか３９年に建て替えを行わなくてはならないという事ですが、補強工事等をやれば、使用年数は耐用年数よりも延ばすことが出来るという様な事も教えてもらった経過もあります。これから５年後の子どもたちの、生徒の人数を見た時に、他町と違って、他町は１００名だとか１５０名だとか多くの子ども達が減っていくという状況にありますけれども、大宮については５０名弱という様なことで、そういった辺りから統合はしなくてもいいと、どうしてもやるんなら、第二、第三をくっつけるという様な経過になってきた。しかし、そこにたどり着くまでに、本当にいろんな学校が地域にある

のに、無くなったらそのコミュニティの事なり、まちづくりの事なり、その事が絡んでくるからこの経過にまとめてくるのが大変だったと思います。他町はそれ以上に大変だろうなと切に感じてますし、それはそれとして、今から再配置というものについての具体的なことを考えていくとなると、このレジメにあげてもらっているようなことを真剣に検討していかないといけないと思うのですが、正直言って、今見てびっくりしたような状況で、意見というところまでちょっと漕ぎ着けないという状況が私自身現状でありまして、もう少し勉強したいと思います。

〈委　員〉

私も同じですね。分科会の方で聞いてきた事で一杯でして、市全体のことを検討しろと言われても、なかなかそこまで考えが及ばない。峰山町さんが１校案というのを聞いた時には仕方がないのかなあ、２つを１つにするとか、４つある所を２校にするとか、４つあるのを３校にするというのでは意見がまとまらないから１校にされたのではないかと考えたんですが、そうではないという話も聞いたりしました。大宮の事に関しますと、既存の施設を使っての再配置にしても、新しいまちづくりと言われてもなかなか我々だけで考えていたんでは人数も少ないし、かなり難しい部分がありまして、他の町の人には分かり辛いでしょうけど、第一小校区の中でもそれぞれ地域があって、違いがあるという事も分科会の中で話がありましたし、それでは第二小と第三小が他と同じようなくくりの中に入っていって同じような事が出来るかといったら、それも難しいと思うんです。その中で、大宮町としては現在の３校という事が一番強く出されて、第二小と第三小とが再配置をするというのが次に出た訳ですし、１校にするという案もありましたけれども、全体としては中々まとまらなかったと思います。私としても、１つの町に１つの小学校というよりは、せめて２校はあって欲しいです。中学校は大宮は１校なのですが、小学校６年間、中学校３年間がほとんと同じメンバーでいかなくてはならない、というのもちょっと変化がないというか、馴れ合いになってしまいそうな気もするというのがあって、私としては大宮町に限らず２校くらい小学校は欲しいという思いであります。以上です。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

〈委　員〉

網野の方は、まとめの方でかなり盛り込ませてもらった様な状態で、一番分科会の回数もさせてもらい、小学校も中学校もどちらも複数ある中で検討をしてきて、地域的な関わ

りにしても途中、山があり、平地でない状態のところで区切りがあるという中で、現状の学校のある場所としては当初の話から、適正な場所にあるんだなという事を認識した中で会議を進めてきました。その中で、既存の校舎で何処まで再配置が出来るかなという中で検討してみました。検討する中で、人数のいるところが校舎が古くて、少なくなったところが校舎が新しいと、そういう事が網野の中であがってきまして、こうなってくると再配置しても中に寄ってこないなという事が出てきたんです。もともと再配置という中で網野は北と南の２つに分かれたという経緯もあるんですが、当初は分かれた後の児童数の推移を見ますと、ここ１０年位辿っていくと１校あたり７００人弱で網野の推移がいくと思えるところから、適正規模という見方にしても、複式学級がどんな状態で人数が減ってくるのかなという事も踏まえて展開していきました。校舎のこともあり児童数の推移の事もあって、今すぐ答えは出ないにしても先の部分を見ると仕方ないんかなと、人数の面で子どもたちが勉強する場として少人数でいいところもあるけれど、切磋琢磨して刺激しあいながら教育を受ける、また先生方にしても教育してもらうという事を考えると、少しでも人数母体がある方がいいんではないかなと、両論の意見が出る中で進めてきたわけですけれども、他町の報告を見させてもらいながら、網野の方としては分科会で話をしていますと、どっちかというと児童数の多い学校の父兄よりも、若干少ない学校の父兄のほうが熱心であって、そういう所が地域の力というか、親から子どもは力をもらっているんじゃないかなという印象を受けました。かえって広くなってしまうと、親もその中にうちの子どもも紛れ込んでいるという様な状態で、親の方もその中に紛れ込んでいるという話もありまして、小規模になりますと誰かが抜けると目立つ中で余計と決断力というか結束力というのがいい面が出ている。そういうものを生かしながら、再配置をするにはどうしたらいいか、最終のまとめまでは行かないですけど、どういう意見の方向だったら納得してもらえるだろうというふうにもってきたのが網野の最終報告でした。先ほどから言われておりますように、統合していきますと学校までの距離も遠くなっていきますし、何キロという距離的なものと、京丹後市の立地条件と、距離だけでなく山あり、谷ありというその辺の事も考慮しながら交通の手段を組んでいかないと、子どもの通学での安全が確保できないのではないかと感じております。特に小学校に関しては、地域に学校がなくなると一番元気がなくなるのはお年寄りではないかなと思います。今迄、地域を支えてきてくれたお年寄りが、学校が遠くなるとだんだん学校離れしていく。子どもも地域にいなくなると地域の子どもの活気がなくなってくるのではないか、という意見が網野の分科会では強く出てきた意見

として捉えさせていただいておりますので、他の地域でもそういうのがあって、これからの人がまちづくりをしなければならないかとも思うが、京丹後市になる以前から各地域でまちづくりに力を出してこられたお年寄りが元気であって、またその力をもらいながら我々の世代が続けていくことがある意味での特色ではないかなと考えております。以上です。

〈委　員〉

何をどう答えていいのかよく分からないのですが、板垣委員さんが言われましたように、どの分科会もまとめるのが大変だったと思うんです。そのうち、どうしても統廃合していかなくてはならない状態が必ず来ると思うんですけど、その時にどのような方法、どのような状態になっても、集った各学校の良いところを認め合って、いいところを取り入れあってそこを伸ばしていける学校ができればと思います。大きくなったから小さい学校の事が忘れられるのではなくて、小さい学校の時の良さを伸ばしていけるような学校がいいなあと私は考えています。それと、通学手段のことがとても気になって、スクールバスの運用という事になると思うんですけど、それが６町すべて可能かどうかという事が気になります。

〈委　員〉

丹後町です。丹後町の場合は、縦長の地形でございまして、間人の方から宇川の方まで距離があります。私たちは一番最初の出発点は小学校、中学校のＰＴＡの代表等が集まっての会合でしたので、まちづくりという事を考えなくて、自分たちの地域を中心とした学校をいかに再配置するのかという観点から、何処が一番困っているのかを考えました。（２）の複式学級、竹野小学校が現在複式学級を行っておりまして、その地域の保護者の皆さんＰＴＡの皆さんがすごい困っている。まず一番最初の出だしで統合したいという事を言われまして、どうしたらいいかという事で皆さんに聞きました。全校児童３０人前後しかいませんので、運動会やいろいろな行事をやるにしても発展性がないというか、地域が小さいので大きい所に行って自分を試してみたい等、要望がありまして、これではいけないという事で第一に小学校の方をどうしたらいいかという事で小学校の方を考えてみました。間人小学校が今一番新しい建物でして耐震性もありますので、豊栄小学校はいかがですか、間人の方に来ていただいたら、という話もしました。ところが、地域性がすごく固いので、地域を取り払った考え方をして下さいと言ったんですが、中々皆さん取り払った考え方ができませんでした。例えば一番顕著なのは宇川地区なんですけど、宇川地区は小学校・中

学校ありまして中学校が今４０名弱、中学校あたりでも、どうですか、間人の方へ統合してみたらと出すんですが、どんな小さい学校でも特殊性があるから、私たちは一緒になることは嫌ですと頭からこんな状態でして、峰山町さんや大宮町さんと違って討論する温度差が凄いあるんです。僕たちは、一緒になって大きくなって、活動力のある、活発性のある地域を作ろうと言ったんですけど如何せん、ＰＴＡの方々、地域の方々からそうだなあという意見が出ませんでして、結局７回までやったんですが、それ以上の壁を乗り越えることが出来ませんでした。宇川地区を見たら、保育所、小学校、中学校が全部一緒で同じ顔ぶれなんですがどうですかという話をするんですが、それでもいいという親御さんが半分以上おられます。いや、そうじゃない、間人の方に引っ付いてもっと活発なクラブ活動等、いろんな事をやってみたいと言われる親御さんも中にはおられました。最終提案をしましたら、６対４くらいでしたね。賛成が４、反対が６という事で、丹後町の場合はこういう事をやりましょう、こういうふうにやったらどうですかという事を言い、今日欠席の野木副座長も一生懸命やってくれたんですが、皆さんの熱い熱意が伝わってこなくて、私たちは次の段階を考えていたのですが、ハードルを越えることが最後まで出来ませんでした。例えば間人中学校も、耐震の面から言いますと凄い年月が経っていますし、耐震的には多分だめだと思います。間人の子が宇川に行ったらという話も出ました。やっぱり間人は間人の方がいいのではという意見も出ました。僕としては、１校にして間人なら間人にきちんとしてもらって､宇川も一緒にやったらいいのではという意見も出したんですけど、皆さんの意見を組み入れることが出来ませんでした。前にも言いましたが、クラブ活動にしても宇川は陸上と、野球と、女子バレーと３つ位しかないんですね。間人は沢山あるんですけど。クラブ的にどうですかという話もしたんですけど、宇川は、この小さい規模ではいらんという親御さんも最後のアンケートの中で出てきていましたし、間人と一緒になってもっと大きくいろいろなクラブをやってみたいという親御さんの意見もかなりありました。その中でも、宇川は宇川で頑張るんだという事で、宇中おやじの会というのが立ち上がって子どもたちと一緒に頑張っている所もありまして、小さいなりに頑張っているんだなあと思っております。交通手段についても、スクールバス等という事になりますと、間人､宇川の場合につきましても相当時間がかかりまして､親御さんの意見としましては、間人の方に宇川を組み入れるとしましてもクラブをやっていたら多分６時か７時位になりますので、帰るのは１時間、３０分から４０分かかりますので、袖志の方まで帰ろうとすると４０分位かかると思います。帰るのが遅くならないかという意見が出てました。皆さ

んの意見を聞かせていただきまして、まちづくりの観点から考えると丹後町は人数もだんだんと少なくなってきていますので、本当を言うと１つにまとめた方が僕は良いんじゃないかなと思いますけれど、皆さんの意見はそのままでいいんじゃないかというものでしたので、丹後町としては、まちづくりの観点から考えると本当は１つで良いんじゃないかなと思いますけれど、分科会の決定は既存のままでいいんじゃないかという事になりました。以上でございます。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。どうぞ。

〈委　員〉

弥栄町の平林です。前回は欠席させていただきまして、どうもすみませんでした。弥栄の分科会は、第１回の時に皆さんの意見を聞くとほとんどの人が反対でした。特に野間なんですが、野間はこれまで中学校を合併した経緯がありまして、町が廃れる、地区が無くなるという意見があったんです。今、野間は町民運動会が年１回あるんですが、野間小学校だけは雨が降っても中止にならないんです。地区のおじいさん、おばあさん、皆さんに来ていただいて、体育館の中で出来るほどの人数なのかも分かりませんが、皆さんで盛り上げてやっていますし、年に１回の文化祭は地区をあげてやってまして、水戸黄門だとか、いろいろな出し物を皆で盛り上げてやっています。委員さんたちも子どもたちの事を考えて、児童推移を考えて、現在１２人位で複式学級を何年も経験してきた親たちなので、人数が少ないからといって合併という事にはならなかったと思うんですけど、子どもの事を考えて、競争だとか、勉強が他の人に比べて出来る、出来ないという事を考えたら、合併も仕方ないという意見に最後の方にはなりました。そこからは再配置に向けて意見はまとまっていったのですが、弥栄町自体が限界集落ばかりでありまして、２校にするなり３校にするなり１校にするなり考えた時に、再配置の時に新築をしないという事があったので、新築しない方向で考えてみると２校になるのですが、２校で考えてもその後、何年か先にもう一回同じ事をしなくてはいけない、また同じ体力を使わないといけないし同じ意見を繰り返さなければならないという事がありまして、それならば１校でどうだろうという事で１校という案にまとまったんですけれども、その１校につきましても、現在鳥取小学校が一番大きくて、何年か前に２７０人位いてそこが使えるんじゃないかなと考えて、鳥取小学校を使おうという案にまとまったんですけれども、今、パソコン教室等で教室を使っていますので、今だったら２クラス分になってしまうんです。それだったら、新築してい

ただいて１校にするか増築をお願いするしか１校案ではまとまらないとなったんですけど、新築とかいう事は分科会で言っても仕方がないという事になりまして、取り敢えず１校案で推そうという結果になりました。通学の面ですけれども、昨年の悲惨な事故の後を受けまして、弥栄町でも国道が走っていることからそこを通学しており、登下校で危ない場面がいっぱいあるんです。そうなると、歩いて通うよりもバス通学とか、安全な所までは行くんで、そこまで迎えに行っていただくとかいう事を考えたら、交通手段を考えていただいて、バスを整備してもらうか遊歩道の確立をしていただいたら通えるかなあという案も出ていました。大宮の第三小学校の方では、4 キロを歩いて通っているようなことを聞きましたけれども、地区によって４キロを歩いて通っている学校や、２キロ位を自転車で通っている学校があると聞きましたので、そういう事を統一するような事が必要だと思います。以上です。

〈委　員〉

平林委員からいろいろと説明していただきましたので、私は個人的なことを、漠然とした事なんですけど、平林委員も私もＰＴＡの会員でして、まだ下に中学生、小学生がいまして、親の立場から言わせていただきますと、私が小さい頃は、小学校、中学校と３０名位子どもがいまして、勉強も出来なかったので放っとかれたんです、中学校の時も。ところが、あるきっかけが中学校の時ありまして、熱心な、ここにおられる米田先生なんですけれども、先生にいろいろ指導していただきまして、個人的に、高校でもいい先生に恵まれまして何とかやってる次第なんですけど、生徒が多いとどうしても目に掛けていただけないというか、特に今殆どの親が共働きですね。だから家に帰っても誰もいないですし、学校に行っても人数が多いと決まった人とだけ遊ぶと、そういう事が危惧されるんです。ＰＴＡの方でも人数、会員数が多いと特定の人だけが関わりを持っていまして、そして後の人は知らん顔というのを大宮の会員さんから聞いたこともあります。親がＰＴＡの方に参加しないという事は、子どもの教育がおろそかになるといいますか、目がかけにくくなる。ですから、1 校になってもＰＴＡの会員の方々皆さんが積極的に参加出来るようならばいいのではないかと思います。また、溝谷小学校で祖父母参観というのがありまして、たまに来ていただいて孫さんの授業を見ていただいたりという事があるんですけれども、1 校になった場合、そういう事が果たして出来るのだろうかと思います。また、昔の話をしていただいたりというのは、地域のおじいさん、おばあさんが来てくれるから子どもたちは聞くんですよね。全然知らないおじいさん、おばあさんだと何だろうとかそういう事

もあるんです。地域に密着した学校というのを深く考えさせられます。新しいまちづくりとか学校との関係はちょっとピンとこないんです。まちづくりといったらどんどん子どもたちが増えていって、その中で、こういうふうにしようとか、ああいうふうにしようというのがまちづくりだと思うんですが、子ども達が減るのにどういうふうにまちづくりをするのか、いまいちピンときません。極端な話ですけれども、子どもたちが自分の行きたい学校、京丹後市だったら何所でもいい、小規模校でもいいし大規模校でもいい、それは親の見栄ではなしに、自分が本当に勉強したい、そこで学びたいという学校だったらいい。別にこれはすごく飛躍しているんですけれども、その子が本当に伸びてくれるなら最終的にはやはり京丹後市を背負っていってくれる子どもたちであって、そういう考えの持てる大人になっていって欲しいなと思います。以上です。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

〈委　員〉

久美浜です。皆さんの話を聞いていると何を喋っていいか分からなくなってしまいましたけれども、分科会をした時に何回も確認したんですけれど、まとめる必要があるのかどうか、何かこういう事に対して意見が欲しいという事があるかという事を何回も確認したんですけれども、ないと、自由な意見で、自由な発想で出して欲しいという事でしたので、それに忠実に意見を分科会では聞かさせていただきました。そういう事ですので、いろんな意見があると思います。再配置について反対もありますし、賛成もあります。ただ、いろいろな話をする中で変わっていくという事もあると思います。最初は賛成の方も多かったですが、反対も結構あったんですけれども、複式学級の問題を話し出した頃から統合した方がいいのかなという話になってきたこともあって、ここに来て思ったのは、こういう論点、視点があるのなら、こういう視点で話をしたら理解されることもありますし、もちろん理解されないこともありますけれども、そういう視点なしに意見だけを聞いたような状態なので、ここで久美浜の意見を出してもこういう事ですけど、そういう視点に立つとそれはどうかなと、例えば財政計画、今、お金が無いので新築は無理になりました。ここで決めるという前提で話をしないといけないのなら、最初からそういうふうに言ってもらった方が分科会として更に活発な意見が出たような気がするんです。そういう事も思っておりますし、私が何故ここにいるのかというと、久美浜の座長をしていたという事で意見を持ってきて、何を言わないといけないのかというと久美浜はこうであったという事を言

うことしかないと思います。委員会はまとめて諮問しないといけないのか、こういう意見がありました。こういう事を思っておられますという事を答申して、教育委員会がそのことで原案作りをするのか、その辺のことも全く今日までの経過で分からないまま来ているのですし、その辺によってまた大分変わってくる気がします。分科会でも言われていたのですけれども、あくまでも今の分科会の委員さんの意見であって、その意見を素早く聞いていただけて、それに向かって再配置なりの対応ならいいのですけれども、例えば久美浜であれば５年後、８年後になると、今の意見は古いと思うんです。その時代、時代の保護者の意見があると思うので、そういう事も考えていきたいなと思います。ここに書いてあるからそれが保護者の全てであるという事にはならないと思います。持っていき方によっても変わってくると思うので。終わります。

〈委　員〉

失礼します。私も分科会から出席させていただいておりまして、本当に難しい問題で、自分自身の意見もこうだというはっきりしたものが未だ見えてきておりません。いろいろな意見を聞かせていただいて、なるほどな、そうだなと納得したことが多いばかりです。また、久美浜の分科会でも、委員さんは実際に小学校・中学校に行かせている方が半数、地域から学校を見られている方が半数と、その立場で意見のずれがあって当たり前、同じという事は決してない、それぞれの立場から学校を見られているなと感じました。また、地域によりましても、いろいろな学校との関わり方でも違いがあり、一概にこうするべきがいいのではないかという様なはっきりした結論がなかなか出せなかった様に思います。今、西山委員さんの方から久美浜のことはほとんど報告していただきましたので、私一個人としての意見なんですけれども、子どもたちは、小学生、中学生は一日の大半を学校という１つの社会の中で生活しているわけで、机の上で学ぶ学習と机の上では学べない学習という２通りの学習を子どもたちは学校という１つの集団生活の中で行っていると思うんです。家庭での共同生活とは違って、学校という集団の中で子ども同士の中での決まりだとかルールだとか、そういう事もいろいろ学習することも多いと思いますが、やはり人数が少なくなってくることに限ることではないんですが、親としては同年代の子どもたちのいろいろな意見や考えを沢山聞ける場であって欲しいなというふうに私は思っています。少人数が決して悪いという意味ではありませんけれども、対大人とではなくて、小学校、中学校について言えるのは子ども同士の中での、１つの社会の中で学んでいくことが多いし、よい競い合いというのが生まれて切磋琢磨し、自分自身も強くなって大きくなってい

く面も沢山あると思うんです。確かに、少人数で先生の行き届いた指導を受けてという事も大切なのかも分かりませんけれども、別の意味でのたくましさというものも今の少人数の学校では、そういう面では不足しているところもあるのではないかなと。これは私の個人的な意見なので、もし間違っていたら本当に失礼なんですけれども。そういった意味で、学校というものをこれからも考えていきたいと思います。すみません、まとまりませんが。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

それぞれ皆さんのご意見を聞かせていただきまして、これから本検討委員会で議論していかなくてはならない中身が少し見えてきたかなと思います。特にまちづくりにどう結びつけていけるのか、本当にそれぞれの学校に良い所があるんだったら、それをどんな形で伸ばしていけるのか、地域とのつながりをどんなようにしたら確保出来るのか、生徒に目が届くことについてどうしたら届くのか、コミュニティの影響をどう確保していくのかというところが、再配置をする事で懸念される中身が出たのかなと、こんな思いがしております。この辺のところがキープできれば各分科会で議論していただいたところに答案用紙が書けるのかなとそんな気が致しますので、この辺のところを皆さん考えていただいてこれからの委員会で十分議論していけたらと思いますし、それ以外でも委員さんでこんな事というのがあれば出していただいて議論をしていくことを重ねていけば、いいまとめが出来るかなという感じがしたところであります。今のところで、委員さんで何かあれば、あと５分位は許される時間かと思いますので、よろしくお願い致します。

〈教育長〉

私が口を挟まない方が良いと思うんですが、分科会の話をいろいろ前回も今回も聞かせていただいて、弥栄町でも久美浜町でも分科会で話し合いを重ねていただいた成果を出していただいていると思いますし、そうでない所でも、例えば峰山での話も皆一緒だというふうに思うんです。学校の統廃合については、入り口から蓋されてしまうのではないかなという事が、そうではなかった。結果的には、まあまあ、もう仕方ないかなあ、そういう事かなあという理解ができたという事は、私は共通した１つの理解ではないかなと思うんですが、これは子どもを持つ親御さんの意見が中心になったからこうなったのであって、違う角度からこの問題を投げかけていったら、結果は大きく違ってくるだろうと思うんです。その辺を大事にしていって検討委員会でまとめていただきたいと思っているのですし、先ほどから出ていますように、１つのパターンにしてしまうのではなしに、相対するよう

な意見があっても、答申としては致し方ないと私は思っている訳です。いただいた答申を基に私どもの方で原案を作らせていただく訳ですので、作った原案をまた叩いていただいたらいい訳です。絞り込んでしまってこの検討委員会で形を作ってさあどうだという様なことにするのは非常にしんどい話だろうと思いますので。ただ、私は積み上げてきていただいた７回なり１２回というその積み上げの成果は、今、発表していただいた中ではっきりと出ていますので、ここは目標とした部分としてはっきりと表に出せることだと思っています。場合によっては、段階的に再配置をしていくことも可能だと思います。例えば、弥栄町さんが言っておられたように、鳥取１つに集まろうやなんて話になってくれば、これは割合早いのではないかと思われますし、土地を求めて学校を建ててという話になると、それまでには今ある学校を皆耐震性を維持しながら、そして土地を求めて学校を建ててといったら、何十年後にという話になるかも知れません。そういうものも話題にしていただきながら答申をいただくという事で、ここであまり絞り込んでいただくことに頭を使っていただく必要はないのではないかなと思っています。ただ、今出ている中で、中学校の統廃合について、中学校は旧町１つ位でいいんじゃないかという意見が大勢を占めていたと思うんですが、それらが比較的そうだという事になれば、これまた割合早く手が掛かる部分ではないかなというふうに思いますし、そのことによって小学校の再配置も加速していくなり、それをにらみながら小学校の再配置が出てくるという事もあろうかと思いますので、あまり絞り込むことに固執しないで意見を出していただく方が有難いんじゃないかなと思っております。

〈委員長〉

特にございませんか。どうぞ。

〈委　員〉

今、教育長さんがおっしゃいましたように、一斉に統合、再配置が出来るという事は、財政的にもいろんな面で不可能に近いなと考えております。しかし、この議論は、今後の児童数の推移を見ると再配置をせざるを得ないという前提で話を進めてきた。それから今おっしゃったように、それは一律ではないんだ。それぞれの地域なり、学校の特徴を考えながら決めていくんだという事を聞きますと、改めてまた各分科会の意見を聞かせていただくと、かなり分科会で詰めてきていただいているし、大体の線が出てきている。それをどうここでまとめていくかという事で、十分対応出来るのではないかなという事を改めて考えさせていただきました。そういう観点ならば、中学校の再編というのをまず最初に取

り上げて議論していただいた方が実質的ではないかなという様な感じを私は受けました。以上です。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。他にご意見はございませんでしょうか。

それでは、本日の議事につきまして終了させていただくという事で、ご協力ありがとうございました。

〈教育次長〉

それでは、９時という時間になりました。熱心にご議論いただきありがとうございました。

１分位時間をいただきまして、発言させていただきたいと思います。今日この次第の中にお示ししました検討のいくつかの視点につきましては、実はこれはもう既に閉じていただきました各町分科会で、様々な角度から本当に沢山のご意見や懸念やいろんなご質問を出していただきまして、その問題点をただ整理させていただいたに過ぎないのでありまして、今日ここに目新しくという事ではないと私は理解しております。皆様方の分科会で、こういった角度で既にご論議をいただいた事をまとめただけのものとご理解いただきたいと思います。それから、分科会がスタートする時点で各町分科会の検討委員会で検討した枠組みという事で、現在の市が置かれている、市内の学校が置かれている諸条件という形でいろいろなデータをお示ししながら、こういった土俵の中で大枠としてはお考えいただきたいという事でお示し致しましたけれども、敢えて再配置の原案といったものは教育委員会の事務局からはお示しをしませんでした。それぞれの地域の特性に応じて自由に、特に身近なお子さんをお持ちの方々のご意見をまとめていただきたいという事でスタートしております。今、６つの町の分科会が１つに合流致しまして、今日で２日目といった感じになっているかと思いますけれど、今日も敢えて様々な再配置に向かっての懸念でありますとか、異なった見解、異見、意見のばらつきといったものがありますが、６町の分科会が同じような姿の再配置のまとめをしていただいているのであれば、かえって市全体の再配置計画というものは大変困難がつきまとうものではないかと考えておりまして、この様々なばらつきとか懸念とか、地域特性を抱えているが故に、今後の再配置も年次計画という年数の膨らみによってこの再配置計画がかえって金太郎飴の様な一律的な再配置ではなくて、本市独特の地域特性、地域が非常に広いとか、山あり谷あり峠あり、またあるところによっては、非常に集約的な地域になっているという様なことがありました上で、全

体としては最終的にいい再配置計画にまとめあげられ、いろんな縄が１本２本となわれていくのではないかという事に期待もし、楽観もしています。ということで、ここで少し意見を述べさせていただきました。

それでは、４のその他の次回の開催時期、及び今後の日程等につきまして、出来ましたら今日この場で方針をお考えいただけたら有難いと思います。委員長よろしくお願い致します。

〈委員長〉

はい、わかりました。

それでは、検討会の開催の頻度なり、いつ答申をしようかなというところで大方の見通しをご確認いただきたいと思いますが、特にございましたらご意見いただけますか。

意見がないようでしたら、検討委員会につきましては、この後も大体月１回位のペースでやっていったらなあという様に思いますし、新聞等に書かれているように、若干早くという事になるのか、できたら１２月末頃を目処という事で答申がさせていただければなというふうに思っておりすが、委員の皆さん如何ですか。あくまでも目安でございますので、月に１回、１２月という事で縛るものでもございませんので、やはり目標を掲げて議論していく方がいいのかなと思いますので、そうさせていただくという事でよろしいでしょうか。

（異議なし）

はい、ありがとうございます。

それでは第６回の委員会でございますが、７月に開催させていただきたいと思います。特に何日がという事がありましたら、お聞かせ願いたいですが、なければ７月２９日位でどうでしょうか。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは次回の開催は７月２９日火曜日、時間は午後７時３０分から、場所はこの場所という事で決めさせていただきたいと思います。以上でございます。

〈教育次長〉

それでは長時間にわたりご協議いただきましてありがとうございました。これで、第５回京丹後市学校再配置検討委員会を閉じさせていただきたいと思います。最後に髙野委員長、閉会のご挨拶をよろしくお願い致します。

〈委員長〉

閉会にあたりまして、一言御礼を申し上げたいと思います。本日は９時迄という事で、

しっかり皆さん方のご意見をいただきまして、いいまとめが出来るのかなという事で大変喜んでおります。これからより良い答申の作成に向けまして、皆さんと一緒にがんばって参りたいと思いますので、何卒ご支援、ご協力をよろしくお願い致しまして終わりの挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

〈教育次長〉

それではこれで閉じさせていただきます。どうぞお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

〈閉会　午後９時０７分〉

※次回開催日　　平成２０年７月２９日（火）午後７時３０分～（予定）

京丹後市役所　峰山庁舎　２階　201.202.203 会議室